

世界遺産マラッカ

シンガポール駐在員事務所
島 宗辰

皆さまは旅行に行く時、目的地はどのようにして決めていますか？レジャー施設や料理が目的という旅行もあるかもしれませんが、世界遺産というのも1つのキーワードとなるのではないのでしょうか。実際、広島には「厳島神社」と「原爆ドーム」という2つの世界遺産があり、多くの観光客でにぎわっています。シンガポールにも「ボタニックガーデン（植物園）」という世界遺産がありますが、今回はシンガポールの近くにある世界遺産、マレーシアの「マラッカ（Malacca）」についてレポートしたいと思います。

現在のマラッカの様子をお伝えする前に、まずはマラッカの歴史から説明します。15世紀にマラッカ王国が誕生し、香辛料の貿易中継港として繁栄。約100年続いたマラッカ王国は16世紀に入りポルトガルに制圧され、以後、1957年のマレーシアの独立まで、オランダ・イギリスとヨーロッパ各国に支配されました。イギリスの植民地時代にはシンガポールを港湾都市として発展させたトーマス・ラッフルズによって、ペナン（マレーシア）と共に英領海峡植民地と定められていましたが、シンガポールの繁栄と共にマラッカの港湾機能は衰退していきます。



マラッカの中心地（オランダ広場）



チャイナタウンの入口

このように、400年を超えるヨーロッパ各国の支配により、街はプラナカン文化（元々現地にいたマレー系民族と交易のために移住してきた中華系民族が融合した独自の文化）の中にヨーロッパ風の建物が混在する街並みが形成されていきました。この独自の文化を保存しようという働きかけが強く、2008年7月にペナンのジョージタウンとともに世界文化遺産に登録されました。ここで気を付けなければいけないのは、「厳島神社」や「原爆ドーム」のように特定の建物が世界遺産に登録されているわけではなく、街全体が文化遺産であるという事です。

皆さまご存知のように、マレーシアは国民の大部分がイスラム教徒の国です。マレーシア国内の他の都市ではモスクが多くみられ他宗教の教会はあまり目立ちませんが、ヨーロッパの影響を受けるここマラッカでは町の中心地にいくつものキリスト教の教会があります。キリスト教の布教で有名なフランシスコ・ザビエルもマラッカを訪れ、布教活動を行っており、フランシスコ・ザビエルの教会と像が建造されています。



オランダ広場にあるキリスト教の教会とザビエル像

マラッカはシンガポールからバスで4~5時間（途中の国境越えでさらに時間がかかる可能性あり）クアラルンプール（マレーシア首都）からバスで2時間の距離にあります。シンガポールへは広島空港から直行便も出ていますので、シンガポールと共に世界遺産マラッカを訪問されてはいかがでしょうか。